【表紙】
時局演芸風景　全三巻

【表紙　裏】」

【１頁】
時局演芸風景　第一集
全三巻　七八七米

台湾総督府
Ｏ第五四七号
検閲済
有効期間
自昭和十七年六月二十五日
至昭和二十一年六月二十四日

活動写真「フィルム」検閲検閲規則第十條第二項ニ依リ手数料ヲ免除ス

障害ナシ
【２頁】

【３頁】
時常演芸風景　第一集　全三巻

梗概▽櫻井潔と其楽団、淡谷のり子の独唱、江戸家猫八の声帯、模馬、漫唱、九貴廉子の舞踊、榎本芝水の琵琶、鈴木凱山の詩吟と舞剣、海軍万歳、富丸の歌謡曲、さくらにっぽんの踊等を撮影編集し之に録音を附したるものなり〜

【３頁、上段】
字幕
Ｔ１、時局演芸風景
　　第一集
Ｔ２、製作提供オールキネマ社
　　録音　昭和光音映画部
Ｔ３、撮影　ヘンリー小谷
　　編成　山田秀三郎

監修　佐々木杢郎

T４、バンド櫻井潔其楽団独唱

【３頁、中段】

Ｄ１、伴奏 音楽

←

【３頁、下段】

【４頁、上段】

（愛国行進曲）

淡谷のり子

【４頁、中段】

Ｄ２（愛国行進曲）

〽見よ東海の空開けて

旭日高く輝けば

天地の正気溌溂と

希望はおどる大八州

おほ晴朗の朝雲に

聞こゆる富士の姿こそ

金鴎無缺ゆるぎなき

我日本の誇りなれ

３（ジャズ演奏）

【４頁、下段】

【５頁、上段】

５、声帯模写

江戸家猫人

【５頁、中段】

Ｄ４（発声）え、夏は一番皆様のお耳に近く聞えるのは蝉の声であります（真似）これは普通の蝉でありまして中にはおつゆを吸ってこの感激して喜んで居る蝉（真似）もあります　中には浪花節見たいな蝉（真似）てな事を云います。一番楽しいのは鈴虫でございます（真似）松虫を一匹おまけいたします。何の商売でもおまけがないといけない相です。デパートで一等賞に奇麗な女の子をおまけに出しました。運の

いい人が家へ連れて来ましたらこの一等賞の女の子はカツラを冠って居りカツラを取ったら頭に毛が一本もない。あれ、一等かと思ったらこりや、禿頭ぢやいと行った想です。松虫を（真似）（豚の鳴き声）これは豚でございます　いびきなんかもにひどいのがありますヨ。木挽形・・・と太って木を切ってゐる方があります（真似）これは切ってゐるんて・・・・中には口笛入りといふのがあります（真似）豚型といふのがあります。（真似）豚見たいに（真似）ひどいのがあります。寝言入りといふやつ・・・・アイスクリーム食べたいボチヤ〳〵〳〵

【5頁、下段】

【6頁、上段】

【6頁、中段】

秋の夜になりますと遠くの方から火の番の木の音（真似）支那そばのラツパが向ふ横町から（真似、チヤルメラの音）草叢では淋しい〳〵こほろぎが（真似）、半ばになるともつとこのちつちやいのが出て来ます。秋も末になると虫もくたびちやつてゐるものがある（真似）これはもう虫の息でございます蛙なんかは兵隊さんが戦線でこのすばらしい銃眼やなんかをトーチカになんか向けてゐる時でも聞えるそうで・・・・（真似）ほつと思ふと敵の飛行機が（真似）来た時にはもうすぐに機関銃で（真似）とやる位の余猶とスピードさゑ持って居ります。蒋介石の声とふのはまだ皆さんは聞いてゐないと思ふんですが・・・・一寸御耳に入れます（赤ん坊の泣き声）蒋介石が生まれたとこでございます

【6頁、下段】

ⓢ音楽

【7頁、上段】

T6漫唱　原田　勇

【7頁、中段】

D6（発声）「おいどうしたい」「どうしたい君、あゝして勇しく出征する皇軍の姿を見ると何かしら、こう感謝の念にみちて思はず目頭の熱くなるのを覚ゆるね」「全くだ中にも降伏姿の凛々しい乗馬姿の将校さんは一段とまた勇ましいぢやないかねえ君同じ出征するなら続らく将校でありたいね」「おい君、君、さう云ふ事を云つちやいかんね」「何故」「何故って考へても見給へ、国家非常時の時に当り、たとへ一兵卒と云へども国を思ふ心に替りはない故に将校だらうが一兵卒だらうが、

そんな事はどつちだつて
唄〽ゐゝぢやありませんかほつときなさい
〽祖国はなれて身は満州の赤い夕陽に照らされて―
「おい早いもんだなあ、祖国をはなれて丸一年だぞ早いものだな」

【7頁、下段】

【8頁、上段】

【8頁、中段】
「そうだ、だがこの一年の間に貴様も変つたなあ色は黒くなるし、髭はのびるし、昔の色男だいなしだぞ……
ハ……だがさう云ふ貴様も随分変つたぞ、がいゝさ、お互に顔かたちなんか変つても大和魂に変りがなければ顔かたちなんかどつちだつて
唄「〽いゝぢやありませんかほつときなさい
〽大和魂弾丸こめてどんと打ち出す敵の陣
「おい見ろ見ろどうだ今俺が打った弾丸は見事敵の陣の小隊長らしい奴を打ち倒したぞ」
「嘘を吐け…あいつを打つ倒したのは俺が打つた弾丸だ
「冗談云ふな俺だ
「いや違ふ、俺だ」
「いや俺だよ」
「まあ興奮するな何れにしても皇軍の貴重な弾丸がお役に立つたのだ個人〳〵の手柄話はどつちだつて
唄〽いゝぢやありませんかほつときなさい

【8頁、下段】
ⓢ音楽

【9頁、上段】
7、独唱
ラクンパルシータ
淡谷のりこ

【9頁、中段】
7、唄〽恋よ、これぞはかなき

野にかほるバラの花にも似て
あはれ秋風ふきすさみ来れば
悲し散りはてぬ忘れられぬ
はかなきもこの世、られしきものこの世
笑いも涙も知るバラの花
タンゴアルヘンチナこそ、このバラにも似て心
もて唄ふ、この花を
あ・・・・・すゝり泣くヴイオリン
もだえるバンドネオン
われらも歌ふよ
タンゴルヘンチナ
第一巻終

【９頁、下段】

【１０頁、上段】
Ｔ１、舞踊（柳の雨）
九貴廉子　　）

【１０頁、中段】
第二巻
１、三味　太鼓の音
２、（柳の雨の歌）
〜ゆく水に雨はそぼふる河岸の燈よ
傘が二つに人影も
更けて寂し■あの流し
駕籠で行くのはお良吉ぢやないか
下田港の春の雨
泣けば椿の花が散る
アレ絃の音もしのびねに
柳は泣いて居るわいな

【１０頁、下段】

【１１頁、上段】
Ｔ２、琵琶

（噫、飯塚部隊長）
榎本芝水

【１１頁、中段】
３（琵琶の音）
４詞
〜九月六日のひるさがり
盧山攻略の激戦に
猛将飯塚部隊長
叱咤激励の真只中
敵弾深く□を撃ち
さしもに猛き大夫も
とうとばかりに倒れたり
スワと駆け寄る将士等の
胸に抱かれし隊長は
西沢少尉の差し出す
旗竿確かと握りしめ
かすかにゆるゝ唇に
天皇陛下萬歳と
声なきこえをしぼりつつ

【１１頁、下段】

【１２頁、上段】
Ｔ３，詩吟と剣舞
全国詩吟放送大会
一等入選者
（城山）
鈴木凱山
【１２頁、中段】
最期を遂げしぞ悲壮なる
忠義烈々勇凛々
古今丈夫孟同倫
人生五十名萬世
香爐峰上に散一輪

4、城山

〜孤軍奮闘囲みを破って皈る
一百の里程砦壁の間
我剣は既に折れ我馬は倒る
秋風骨を埋む故郷の山

第二巻終

【１２頁、下段】
ⓢ音楽

【１３頁、上段】
Ｔ１、海軍萬歳
佐藤サクラ
川路紫郎

【１３頁、中段】
第三巻
１（発声）
「我が海軍の記念日は何月何日か」
「ハツあれは三月十日であります」
「三月十日は陸軍記念日だ」
「四月の八日で……」
「四月の八日はお釈迦様だ」
「では五月……」
「五月何日か？」
「サア？」
「サアーとわからん奴があるか」
「然し先任下士」
「なんだ？」
「軍機のことは秘密になつて居るんでありますから
「うまく云い抜けたなお前ししんからそう云ふん

【１３頁、下段】
ⓢ音楽

【１４頁、上段】

【１４頁、中段】
だらう」
「先任下士は何月何日でありあすか
「五月二十七日さ」
「自分も矢張り同じであります
「うそをつけ貴様は自分では解らんもんだから俺に云はしたな
「ヨシ今年は■紀元何年だ」
「紀元節であります」
「誰が紀元節を聞いてゐるか」
「紀元といふのは神武天皇様が御即位遊ばされてから今年で何年だと云ふのだ・・・
「神武天皇様が御即位遊ばされてからかれこれ二千八百年かな
「うそ八百年云ふんぢやない」
「二千六百年――」
「二千六百年は何だ」
「万国博覧会であります」

【１４頁、下段】

【１５頁、上段】

【１５頁、中段】
「誰が万国博覧会を聞いておるか」
「解りました」
「何年か？」
「千九百三十八年であります」
「それが紀元か？」
「さうであります」
「何日からそうなった」
「西暦は何年だ？」
「西暦は西暦は矢張り千九百三十八年であります」
「紀元も西暦もおんなじか―」
「さうであります」
「この間のベルリンできまりました」
「でたらめを云ふな、紀元二千五百九十八年、西暦千九百三十八年同一ではないぞ、よく覚えておけ」

「よく覚えておけってお前だ」

【１５頁、下段】

【１６頁、上段】

【１６頁、中段】

「ヨシ、今より戦闘動作斥候の任務銃を持って来い」

「ハツ」

気をつけ、命令前方六キロの地点に敵兵あらはる、齋藤はこれよりその敵情を偵察をして今より二時間の後現地に皈れ！！終り、復唱」

「復唱ウム前方六キログラムに於て」

誰が六キログラムだ六キロメートルだ」

「自分はその敵情を偵察して二時間後、現地に皈ります、復唱終り」

「ヨシ出発準備」

「ハツ出来ました」

「ただちに出発」

「早く行け」

「早く行けってお前が行くんだ」

【１６頁、下段】

ⓢ靴の音

【１７頁、上段】

【１７頁、中段】

「ハツ報告！！」

「何か」

「敵はおよそ百名ばかり攻戦の準備中でありました、終り」

「約一箇中隊の敵兵が我に向って攻戦の準備中か」

「そうであります」

「何か新発見はなかつたか」

「ありました」

「何があったか？」

「犬が居ました」「軍用犬か」

「そうではないんであります」

「なんだ？」
「あれは小さいからテリヤだつたのかな」

【１７頁、下段】

【１８頁、上段】

【１８頁、中段】
「そんな物に用はない敵の逆襲だ」
それ打て、味方を打つちや駄目だ、逆襲向ふだまったく八百（銃声）六百（銃声）
「あ・・・・もう花火がなくなつちやった」
「馬鹿野郎云ふ事にことかいて花火がなくなつたと云ふ奴があるか玉がなくなつたと云へ」
「はあ玉なしであります、
しゃれを云ふな弾丸がなくなったら仕方ない肉弾を持つてあたれ」
「はあ」突撃（喚声）（ラッパの音）
（うめき声）
「やられた」「やられた」「やられちやつた」
「上官ウツカリして下さい
「ウツカリではないそれはしつかりだ」
「ハワオー傷は深いでありますぞこりや」
「だめだなあお前は傷が深いなんて云つたら俺ががつかりして了ふぢやないか、上官傷は浅いんでありますとこふ云へ」
「ハツオツ上官これは傷は浅いんであります」
気をたしかにお持ち下さい」
「ありがたう此の重傷では所詮再び起たうとは思はれん、お前は御苦労だが俺に替って突撃をしろツ」
「それは出来ないんであります」
「お前が力を入れなくても手おいは俺れだよ」
「ハツ自分は上官を一人おいてこのまゝどうして行かれませうか自分は出来ませんであります」
「ありがたう」
「ハツ！・」

【１８頁、下段】

【１９頁、上段】

【１９頁、中段】
「お前のその言葉は嬉しいだが私事にこだはつて大切な任務をおろそかにしてはならぬ命令だ行けツ！」
命令とあればその通り致しますではごめんなさいそら行けウハ――そら行けウワ――
万歳〳〵〳〵
「おっ先任下士喜んで下さい」
「どうしたか」
「先任下士敵はいよ〳〵決滅して立派に我が軍の占領することになつたんであります」
「何ツ敵の使用陣地は完全に我が軍の占領する処となったのか？
「さうであります
「ウレシイナ――」
「笑って下さい」

【１９頁、中段】
ⓢラツパ音

【２０頁、上段】
Ｔ２、歌謡曲
富丸

【２０頁、中段】
「笑って居られるか臣□日本大帝国の万歳を三唱しやう、三唱しませうお苦労だ、手を貸せ」
「お手々をつないでチッチッパッパでも・・・・
「鬼ごっこぢやないよ」
「ハツ、ヤ――　　」
大日本帝国万歳〳〵〳〵〳〵

２、唄
〝親呼の声や旗の波
跡は頼むのあの声よ
此れが最後の戦地の便り
今日も遠くでラツパの音
〝思へばあの日は雨だった

坊やは此月でスヤ〳〵と
旗を枕に寝むってゐたが
頬に涙が光ってた

【２０頁、下段】
ⓢラッパ音
ⓢ音楽

【２１頁、上段】
Ｔ３、舞踊
（さくらにっぽん）
九貴廉子
九貴静子
九貴信子
渡辺光子

完１

【２１頁、中段】
〜東洋平和の為ならば
何で泣きましよ国の為
散った貴方のカタミの坊や
決って立派にそだてます　　ⓢ音楽

３唄
〜ぱらりぱらつとぱつと咲いたよ咲いた
婿き出かけた主の手柄で咲いた咲いた咲いたく
大和ざくらよ、ソーレガンバレガンバレ
ダンゼンガンバレバンバンザイ

〜ぱらりぱらつとぱつと咲いたよ咲いた
見せてやりたい遠い戦地へ咲いたさくらよ
大和さくらよソーレガンバレガンバレ
ダンゼンガンバレ　　バンバンザイ

〜ぱらりぱらつとぱつと咲いたよ咲いた

勝つた兜へさした枝にも咲いた咲いたく
大和ざくらよソーレガンバレガンバレ
ダンゼンガンバレ　バンバンザイ

【２１頁、下段】
ⓢ音楽
ⓢ音楽

【採録者:藤沼克行】
【データ校正:青木学】